

薬害に関する授業 実践事例集



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

※この教材は「薬害を取り、被害にあった方々の声を聴き、薬害発生のプロセスを学び、薬害が起こらない社会の仕組みを考える」ために作られています。

厚生労働省では文部科学省の協力を得て、中学校第3学年を対象として薬害を学ぶための教材『薬害を学ぼう』を作成し、全国の中学校に配布しています。

このたび、薬害を学び再発を防止するための教育の一層の推進に資するため、授業実施の参考となるよう、薬害に関する授業の実践事例集をまとめました。

『薬害を学ぼう 指導の手引き』や同『簡略版』とともに、本事例集も是非ご活用ください。なお、厚生労働省特設HP「薬害を学ぼう」(※)の「参考資料等」のコーナーに、下記の授業で作成いただいた指導案等を掲載しています。

※ <http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakugai/index.html>

1. 中学校第3学年の社会科（公民的分野）での実践例	ページ
(1) 国立大学法人 筑波大学附属中学校（東京都文京区） →「よりよい社会を目指して」に関連する事項として実施	1～3
(2) 学校法人駿台甲府学園 駿台甲府中学校（山梨県甲府市） →人権に関連する事項として実施	4～6
2. 中学校第3学年を対象にした社会科以外の教科等での実践例	ページ
(1) 枚方市立 杉中学校（大阪府枚方市） →総合的な学習の時間において実施	7～9
(2) 国立大学法人 筑波大学附属中学校 →道徳において被害を受けた方からの講演による授業を実施	10
3. 高校生の公民科現代社会での実践例	ページ
(1) 大阪府立 牧野高等学校（大阪府枚方市） →人権に関連する事項として実施	11～12
(2) 学校法人志学会学院 志学会高等学校（埼玉県杉戸町） →消費者問題に関連する事項として実施	13～14
4. 高校生を対象にした公民科以外の教科等での実践例	ページ
(1) 兵庫県立 尼崎小田高等学校（兵庫県尼崎市） →学校設定教科(健康)・学校設定科目(看護医療総合)において実施	15～18
(2) 以下の学校で被害を受けた方からの講演による授業を実施 ①大阪府立 牧野高校 →人権講演会 ②学校法人志学会学院 志学会高等学校 →特別活動	19

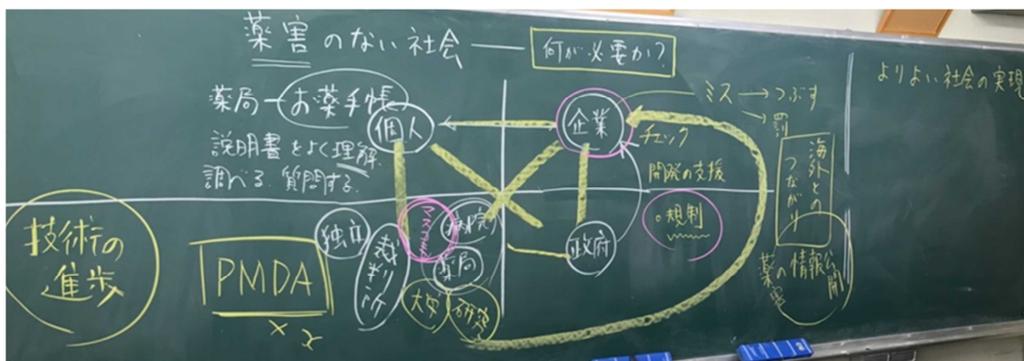
1. 中学校第3学年の社会科（公民的分野）での実践例

（1）国立大学法人 筑波大学附属中学校

対象学年	中学校第3学年
教科等	社会科（公民的分野）「よりよい社会を目指して」と関連させて指導を実施
学習の目的	持続可能な社会を形成するという観点から、個人が健康で文化的な生活を送りつつ、よりよい社会を築いていくために解決すべき課題として、「薬害」を取り上げ、「薬害を根絶するために必要なこと」などを探究し、自分の考えをまとめる。

授業の流れ

- 薬害のない社会を実現するには何が必要か考えることが授業のテーマである旨説明。
- 「薬害」と「副作用」の違いが分かるか、生徒に質問。
→「程度（症状の重症度に応じて、重症であれば薬害であるが軽症であれば副作用）」や「期間」等の回答。
- 「薬害を学ぼう」から情報を抜粋した資料を配付し、各自で目を通した後、「個人」、「企業」、「政府」、「その他の独立した存在」がそれぞれ何をすべきか、二人一組で議論し、生徒から発表。（生徒の意見（一部）は以下のとおり）
 - 政府が医薬品開発の支援と規制を行うべき。
 - 企業がミスをしたら罰則を科すべき。
 - 海外とのつながりを強化。問題が起こったら情報公開。
 - チェックする機関を複数設置（PMDAを分割）し、相互監視させる。
 - 個人は、お薬手帳や薬の説明書をよく見て、調べたり、薬局に訊いたりするべき。



○この授業を通して、社会はどうあるべきかを考えてほしい旨先生から説明。

授業を受けた生徒の感想（一部）

○薬害について知ることができた。

- 薬害の奥深さが分かり、それを知ることで日本全体の問題に気づけたこと。
- あまり知らなかった薬害の存在を知ることが出来た。
- 薬害が自分に起こりうることもかもしれないと、身近な問題として考えられるようになった。

○薬害について考えたこと・知ったことが印象に残った。

- 薬害と副作用の違いについて今まで考えたことがなかったので、今回の授業を通して、細かな違いについて理解できたと思います。
- 知らされていない副作用によって被害が出たという恐ろしさを知りました。薬の開発は大変で、人類の発展とうまくあわせて考えていく必要があると思った。

○再発防止について考えることができた。

- 現状を知ることによって、自分でどうすれば薬害についてなくすことができるかを深く考えるきっかけとなった。
- 「薬害」が起こったという事実を知り、どのようにすればこのようなことが二度と起こらない世の中になるのかということについて考えた点。

○国等に責任があり生じた問題であることが印象に残った。

- 「薬害」と聞くと今までは「製薬企業のミス」と思っていたが、政府や国も関わっていると知って、他人事ではないと強く思った。
- 薬害は4つの連携のどこかが何らかの影響により問題が生じることが印象に残った。

○その他

- 一つの問題の解決手段を考えると、様々な立場においてのできることを考えた点。答えは一つではないということを知ることができた。
- 薬害は自分に起こるかも知れず、真剣に取り組もうと思える課題でした。同時に公民の内容（行政や個人の関係）も考えられました。
- 薬害を防ぐには個人や企業、政府はどうしたら良いか考えたこと。
- 医薬品は売られはじめたことでわかる副作用があるときもある。

被害者の方々による講演について

本資料でも紹介しているとおり、薬害に関する授業を実施する場合、被害者の方からお話を聞く時間を授業の中に組み込むことも考えられます。

全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）においては、講師派遣を行っていますので、お知らせします。

<薬被連問い合わせ先>

【メール（講師派遣窓口専用）】 yakuhiren.lecturer@gmail.com

【薬被連窓口】公益財団法人いしずえ（サリドマイド福祉センター）

〒153-0063 東京都目黒区目黒 1-9-19

（電話）03-5437-5491（FAX）03-5437-5492

※講師派遣を要請する場合は、上記の専用アドレスにて依頼してください。



1. 中学校第3学年の社会科（公民的分野）での実践例

（2）学校法人駿台甲府学園 駿台甲府中学校

対象学年	中学校第3学年
教科等	社会科（公民的分野）（人権と関連させて指導を実施）
学習の目的	被害拡大の原因と人権について学ぶこと

授業の流れ

- がん治療に用いる医薬品の外箱（3種類。地域の薬剤師から入手されたもの）を生徒に配布。
- 「薬害を学ぼう」のp 1, 2にある薬害に関する説明を生徒が読み上げ。先生から被害拡大の原因と人権の二つを意識すること、薬害を生じさせた医薬品によって恩恵を受けた人もいること、当時の社会情勢（高度経済成長、バブル経済等）等について適宜説明。
- 視聴覚教材のうち、被害者の声の部分を視聴。
- 指摘されていた被害拡大の原因について先生から質問
→「情報をもっと早く医療従事者が伝えれば良かった」
「薬の使用を禁止すれば良かった」等の回答
- 被害者が奪われた人権について先生から質問
→「自由権（身体的自由）」、「生存権」等の回答。
※先生から、差別や偏見を受けた方もおり、法の下での平等に関わる問題でもあったことや、これまでの授業で学んできたこととつなげて考えて欲しい旨を補足
- 「薬害を学ぼう」のp 5, 6にある薬害の防止のために、国、製薬企業、医療機関・薬局、消費者ごとに果たすべき役割について質問を挟みつつ説明。



- 回覧した医薬品の外箱について、がん治療に用いる医薬品であること、一つは抗がん剤の効果を高めるための医薬品であること、副作用を抑える薬は副作用が実際に発生してから処方されると薬剤師から教えてもらったこと等について触れつつ、「薬に対する関心」を持ってもらいたい旨説明。

授業を受けた生徒の感想（一部）

○薬害について理解できた

- －薬害のことをよく学ぶことができた。障害者を同情して哀れんだり、差別したりするのではなくて、一人の人間として接することが大切なのだと学べた。
- －薬害が人にどのような影響を及ぼすのか、何年経っても治らないものになるということが良く分かった。薬一つでどのような被害が起こるのか分かった。

○視聴覚教材が印象に残った

- －それぞれの薬害について、被害者からの話をきいたところです。自分が思っている以上に悲惨だった事実には驚かされました。また、禁止しなかったことに対して怒りの心がわいてきました。
- －薬害の被害者の人たちの声を聞いたとき、一番印象に残った。

○被害者の声を聞くことができた

- －実際の被害者のインタビューを聞いて、実感がわいた。
- －実際に薬害で被害を受けた方々の話を通して、薬害の辛さを知ることができたところ。
- －演習という形の授業ではなく、ビデオにおける授業も新鮮で理解しやすかった。

○薬害の種類が多さ、規模が多さ、症状の重さ等が印象に残った

- －薬害のせいで、体が悪くなってしまった人が多いということ。
- －薬害を使用したことで、たくさんの人々が苦しみ、痛い思いをしたことが

分かった。薬害などということは二度としてはいけない事であると思った。しかし、名前が分からないカタカナ言葉も多かったので、そこをもう少し分かりやすく教えていただきたかった。

○その他

- 「改善すべき点」などは、これからも私たちが心がけていけるような事で、興味を持てた。
- 薬の副作用について軽度だけでなく重度の作用が出てしまう危険性を強く実感した。
- 日頃飲んでいる薬を改めて考える良い機会でした。
- 被害や差別がひどいし、国もおかしいと思った。
- 今の薬があるのは過去の犠牲があったからだ分かった。
- 何かしら障害のある人にとってはまだまだ生き辛い、偏見の多い社会だなと思った。

視聴覚教材について

「薬害を学ぼう」の構成に沿って、これまでの歴史や被害者の方々の声などを収録した視聴覚教材も用意しています。

全編再生だけでなく、チャプターごと、お話しされている被害者の方ごとでも再生できます。

ぜひ、ご活用ください。



2. 中学校第3学年を対象にした社会科以外の教科等での実践例

(1) 枚方市立 杉中学校

対象学年	中学校第2、3学年
教科等	総合的な学習の時間
学習の目的	障害とともに生きることについて考えるために、薬害問題について学ぶ。

授業の流れ

【1時間目】

- サリドマイド事件について特集した「薬禍の歳月」(NHK ETV)の録画を視聴(35分程度)
- 「薬害を学ぼう」を用いてサリドマイド事件について紹介(p1、p3、p6について。10分程度)

【2時間目】

増山ゆかり氏((公財)いしずえ サリドマイド福祉センター)による講演。講演概要は下記の通り。

- 薬には主作用と副作用がある。副作用は、風邪薬を飲んで胃がむかむかする、注射を打ったところが腫れるというようなもの。
- 薬害という言葉があるが、副作用を越えた被害が薬害であると考えている。例えばサリドマイドは、つわり止めとして妊婦が服用し、障害のある子供が生まれている。リスクとベネフィットのバランスがとれておらず、薬として成り立たない。
- また、薬害には人災という側面もあり、適切な対応がされなかったため被害が生じてしまったものと言うこともできると考えている。サリドマイドが外国で販売停止となったときに日本でも回収していれば、被害に遭わずに済んだ方も多い。
- 障害があり、生きたいように生きられないことが多かったが、「負けたくない」という気持ちも強かった。助けてくれる人も多くいた。
- 就職したとき、手を使う仕事は難しいだろうから、通訳が向いているのではと助言を受け、中国語を必死に勉強し、中国に赴任したこともあった。

- 副作用が避けられないという薬の性質を考えると、薬害は再び起きてしまうかもしれない、皆さんが被害者にも加害者にもなり得る。
- 薬害を繰り返さないように自分で何ができるか、自分が越えられなさそうな困難な状況に置かれたらどうするか。今日の講演を聞いて考えるきっかけになれば幸い。



- ※写真左：障害とともに生きるとはどういうことを知ってもらうため、生徒にニンジン片を片手で皮むきしてもらった際の様子
- 写真右：増山氏の日常生活の様子を撮影した動画を放映しながら、講演を実施。

授業を受けた生徒の感想（一部）

- 薬害について知ることができた
 - －薬害のことはきいたこともなかったけど、この授業で知って、苦しんでいる人がいることもわかってよかった。私の身にも起こりうるので他人事と思わずに気をつけたい。
 - －アスベストや危険ドラッグは聞いたことはあるが、薬害というのは知らなかったし、本当は（多分）人のためにつくった薬からこのような大事に発展した、などの今まで聞いたことのないことや、見たことのないものを初めて見て衝撃を受けたけど、とてもいい勉強になった。
- 被害者への共感
 - －被害者の方々が死と向き合いながら、でも死という選択をせず生きてきた姿に心をうたれました。薬害の被害者になってほしくない・薬害の被害をなくしたいという気持ちで生きている方々と協力して世界を守る必要があると思いました。

- 国は安全ですよって言っていたのにそれを使用したことによって障害のある子供たちがたくさん生まれてきて、和解した今でもその薬の副作用によって、苦しんでいる人たちがたくさんいることが一番印象に残っています。

○薬害について知った

- 薬害はダメなことで、40年前にこんな事件が起きていたなんて知らなかった。そんなものはなくなってほしいと思った。

- 薬害は、薬の副作用とはちがうことがわかった

○被害者の講演を聴くことができた

- 知らなかったことを知って、はじめて考えることや被害者の方の声をきいてなんでもっと早く販売を中止しなかったのかなどくやしい気持ちになりました。色々考えれてよかったです。

- こんな事があったなんて全然しらなかったけど、被害にあった人の話をきけて良かった。

○国、製薬企業等の対応

- ドイツでは、もう販売停止していたのに、日本では、まだしばらく販売していたということ。これのせいで、もっと障害者がふえてしまったりしたから。

- 製薬会社が薬の危険性を知りながら販売を続けたり、薬との関係を否定していたことはとてもひどいと思いました。

○再発防止について考えることができた

- 後世にこのことを伝えていき、このことを二度と起こしてほしくないという思いが伝わった。

- 二度と同じまちがいをおこさないでほしいという気持ちがでてきてこれから先、考えることができた。

2. 中学校第3学年を対象にした社会科以外の教科等での実践例

(2) 国立大学法人 筑波大学附属中学校

対象学年	中学校第3学年
教科等	道徳
学習の目的	障害のある方々のご苦勞やご努力から公正や公平について学ぶ

授業の流れ

正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努めることを指導するため、増山ゆかり氏（(公財) いしずえ サリドマイド福祉センター）による講演を実施

※1. (1) に掲載した授業の後に本授業を実施。

※講演概要は2. (1) 枚方市立杉中学校を参照

授業を受けた生徒の感想（一部）

－薬害は、生まれたときからある場合もあるし、もしかしたらこれから私たちが風邪を引いて飲んだ薬やワクチンが原因でなる可能性もあるので、普通の障害よりも自分たちに身近だし、自分が被害者でなく、いつか加害者になってしまう可能性もあり、身近だからこそ考えなければならない問題だと感じた。

－サリドマイドによる薬害はドイツで作られて日本に輸入されたもので、すべての国の問題かもしれないが、日本において、差別等の問題があった。講演で日本という国の中での正義のあり方の問題でもあるとおっしゃっていたが、日本という国が薬害や社会問題、一人一人の幸福について日本がどのように正義を実行していくべきか、考えさせられる内容だった。

－私が知っていた薬害も、名前くらいしかわからなかったので深く知ることができてよかったです。被害者増山さんの辛い経験や小さい頃に思っていたこと、これまでの努力、今変わってほしいという願いがひしひしと伝わってきてとても心を動かされました。多くの人が薬害を知るべきだし、障害のある人に対する差別、偏見を根絶すべきだと感じられたところが良かったです。

3. 高校生の公民科現代社会での実践例

(1) 大阪府立 牧野高等学校

対象学年	高等学校第1学年
教科等	公民科現代社会（人権と関連させて指導を実施）
学習の目的	人権について学ぶ授業の一環（10回目）として実施。薬害はなぜ起こったのか、薬害を起こさない社会にするにはどうしたらよいか考え、薬害が人権の問題であることを理解する。

授業の流れ

- 薬によって障害を負ってしまうことがあるという導入の話の後、薬害の原因を漢字一字で表すと何か、先生から質問。（「人」、「薬」との回答あり）
- 薬には、眠くなる等、必ず副作用があるということを説明。視聴覚教材（薬害の歴史に関する部分）を視聴し、改めて薬害の原因は何か、先生から質問。（「人」との回答）
副作用とは異なり、薬害の原因は、「薬」ではなく「人」（具体的には、製薬会社、国、医療機関・薬局）にあると考えられる旨説明。
- 薬害を起こさない社会にするにはどうしたらよいか、生徒が、A製薬会社、B国、C医療機関・薬局、D消費者それぞれの立場で考えるグループに分かれて議論し、各グループの代表者が意見を発表。
（生徒の意見（概要）は以下のとおり）
 - A製薬会社：薬について色々な実験をする。
 - B国：製薬会社とは別に、独自に薬を検査する機関をつくる。
 - C医療機関・薬局：最新の知識を身につける。
 - D消費者：まずはそもそも病気にならないこと。薬・病気についての知識を身につける。薬の説明をよく読み、医師や薬剤師の話を聴く。
- まとめとして以下のとおり説明。
 - ・ 産・官・学が国民の命を最優先に考えて仕事をするとともに、互いをチェックすることが重要。
 - ・ 国民が産・官・学を監視するとともに、病気や薬について学び、正しい選択をすることも重要。自己決定権とも関連する。
 - ・ 人の幸せを奪うのは人、人の人権を守ることができるのも人である。

授業を受けた生徒の感想（一部）

○薬害について知った

- 薬害は、多くの人が被害を受けていることがわかった。
- 薬害は、副作用が出すぎてしまったものだと思っていたけど、違ったのがびっくりした。
- 副作用と薬害が違うこと

○医薬品への興味を持つことができた

- 今まであまり目を通していなかった医薬品の取り扱い説明書を、次からはよく読んでみよう、という意識を持つことができたこと。
- 薬と向き合ういい機会になった

○自分にも関係のあることだと知った

- 思っていた以上に過去の案件が多く、これから起こる可能性も十分にあると思い、少し怖く思った。
- 人権を侵害するのも、守るのも私たち人だということ。

○視聴覚教材が薬害の理解に役立った

- 事件の説明がDVDでされていたこと。
- 映像を使用していて、見やすかった。

○グループでの議論が印象に残った

- 薬をつくってから消費するまでにどうやって薬害を防ぐか話し合ったこと。
- 薬害をなくすためにどうすればいいのか考えられたことです。

○様々な視点で薬害について考えることができた

- グループに分かれているんな視点から薬害について考えた点。
- DVDもあって、とても分かりやすかったし、グループワークで他の人の意見も知れたのでよかった。

3. 高校生の公民科現代社会での実践例

(2) 学校法人志学会学院 志学会高等学校

対象学年	高等学校第1学年
教科等	公民科現代社会（消費者問題と関連させて指導を実施）
学習の目的	消費者問題の問題点について理解する、消費者問題・運動のあゆみを理解する、消費者問題を防ぐ方法について考える。

授業の流れ

注：事前にサリドマイド事件について特集した「薬禍の歳月」（NHK ETV）の録画を視聴した上で、以下の授業を実施。

- 消費者問題について、「信用」に着目しつつ、教科書に沿って説明。
- 消費者行政に関し、消費者運動を契機に制定された法律、行政機関について説明。
- サリドマイド事件を防ぐためにすべきであったことについて考えをまとめ、生徒から発表。他の生徒の発表を聞いた感想についてもまとめる。
（生徒の意見（一部）は以下のとおり）
 - －日本や世界に送り出す前によく「効果」やドイツで出た「事件」「事故」を知らせるべきだった。
 - －被害が確認されたらすぐに生産・販売中止にするべきだった。
 - －サリドマイドの安全性を責任を持ってしっかり調べるべきだった。 等
- 消費者としてどのような点に注意すべきかについて、自分の考えをまとめる。（生徒の考え（一部）は以下のとおり）
 - －薬などは副作用を知った上で使用すべきである。また、製品についてある程度の知識が必要である。
 - －安全を求める権利、知らされる権利、選ぶ権利、意見が反映される権利があることを理解する必要がある。 等

授業を受けた生徒の感想（一部）

- 医薬品にはリスクもあることを意識すべきだと知った
 - －しっかりと危険性を確かめずに安全とうたって出した結果なので、そう簡

単に信じてはいけないと思った。

-事件や薬害について知れて良かったです。薬品についてもう少し慎重になろうと思いました。

○被害者への共感

-生まれつきのハンデを負っても、強く生きている人たちがいることを知った。薬一つで人生を大きく狂わせられている人々が、行動を起こして訴えかけていることに感動した。被害者の方々の近況や実態をみて対応することが大切だと思った。

-たった一つの薬のせいで、苦しんだ人がたくさんいて、治せないなんて変だなと思いました。被害者が出る前にこうなることを分かっていたら防げたのに、差別や他の人からの嫌な視線を感じて生きてきたのは本当に辛いことだと思います。二度と同じことがないといいと思います。

○国や製薬企業等の対応について

-こうした薬害を繰り返さないためにも薬が安全かを調べることが大事だと考えました。

-もっと早く国や製薬会社に対応していれば大きな被害が防げたのかもしれないと思いました。これからサリドマイド事件のような事が起きないようにしてほしいと思いました。

4. 高校生を対象にした公民科以外の教科等での実践例

(1) 兵庫県立 尼崎小田高等学校

対象学年	高等学校第3学年 (普通科看護医療・健康類型、「看護医療総合」選択者)
教科等	学校設定教科「健康」における学校設定科目「看護医療総合」(5時限の授業を3回に分けて実施しており、本資料では被害者の講演を含む第2、3時限の授業について記載。)
学習の目的	薬の正しい知識—薬のベネフィットとリスクを学ぶ／薬害根絶に向けて、薬害の歴史と現状を学ぶ／薬害被害者の家族からの話を聞き、本人や家族の思いを知る／薬害が繰り返される原因とどうすれば薬害を根絶することができるのかを学ぶ／将来、看護師を含め医療職に就こうと考えている生徒にとって、自分に何ができるのかを考える／医療職に就いた時に医療職として何ができるのかを考える

授業の流れ

(1) 上野秀雄氏 (MMR被害児を救援する会) 講演①

- MMRワクチンの副反応の多さが報道されていた中、親としては接種を希望していなかったが、医師の強い勧めもあり、結果として接種することとなり、被害を受けてしまった。
- 被害認定を受けた人は1041人と多く、死亡例も存在する。
- 複数のメーカーがワクチンを作成していたが、そのうちの一つの会社が承認を得ていた方法と異なる方法で製造していて、それが多くの被害者を出した原因の一つと考えている。
- 多くの副作用が判明していた中で、情報が迅速に公表されなかったり、国・企業の対策が早期に取られなかったりした、という問題があると考えている。

(2) グループディスカッション (4~5人で1グループ)

薬害発生防止のために、国、企業、医師・医療機関、国民のそれぞれが考えなければならないことについて話し合い、生徒から以下のとおり発表。

①国

「情報公表」：正しいデータを公開して国民に伝える／情報を正しく公開す

る／隠ぺいしない 等

「迅速な対応」：迅速な対応をする／製薬会社に適切な指導を行う／もっと早く中止すべきだった 等

「監督体制」：安全性のチェックの基準を厳しくする／薬の取り締まりを強化する／安全性を確認してから始めるべき 等

②製薬会社

「姿勢」：利益よりも国民のことを考える／利益を優先しすぎない／危険な薬の販売中止・回収を素早く 等

「コンプライアンス」：未承認のものを使わない／勝手に薬の培養方法を変えない／混合する必要性があったのか 等

「情報公表」：薬について正しい情報を伝える／実験を公開する 等

「研究」：薬自体をもっと研究すべき。とくに副作用

③医師・医療機関

「インフォームドコンセント」：副作用の把握と正確な情報を伝える／薬の影響をしっかりと説明する／患者の意見が優先／家族の意志を尊重する 等

「情報収集」：薬の情報を知る／副作用や危険性を国や製薬会社に報告する 等

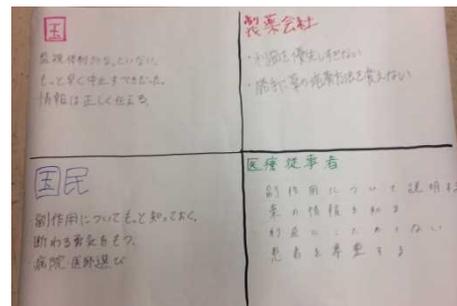
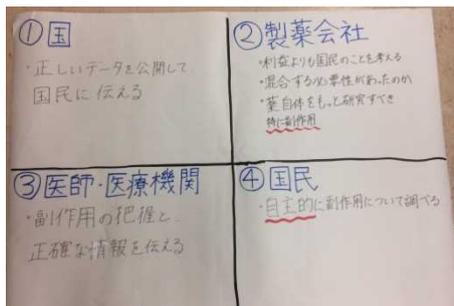
「姿勢」等：利益にこだわらない／期限切れを使わない

④国民

「情報収集」：自主的に副作用について調べる／知識をつける。副作用に危機感をもつ／薬に興味をもつ／薬害について知る／何でもかんでもうのみにしない／メリット、デメリットを聞く 等

「意思の表明」断る勇気をもつ／自分の意見をはっきり医者伝える 等

「姿勢」等：病院・医師選び／自分の時間短縮より、子どものためにいい方法を取る



(3) 上野秀雄氏講演② (裁判と判決について)

- 裁判では、MMRワクチンと健康被害との間に因果関係が認められた人と、認められなかった人がいた。
- 企業については、副反応が発生することの予見可能性があったとして、責任が認められた。
- 国の責任については、製造承認段階の確認義務を怠ったとまでは言えず、ワクチン接種の一時見合わせ措置や緊急命令を発すべき法的義務があったとまでは認められなかったが、企業への指導監督義務違反は認めた。
- 事件によって予防接種の制度が良い方向に変わってきたところもあるが、まだ問題は残っていると考えている。

授業を受けた生徒の感想 (一部)

○薬害について理解できた

- 実際に被害にあわれた方の話を聞くことで薬害について、関心を持つことができた。決して他人事ではなく、きちんと知識を持たなければいけないと感じた。
- 薬害の怖さを知ることができた。もっとたくさんの人に薬害の怖さを知ってもらいたいです。
- MMRの薬害について詳しく知れた。もっと社会の問題に目を向ける必要性を感じた。

○被害者の方による講演が印象に残った

- 発症～現在の状況を話して下さったこと。細かい話が聞けて良かったし、恐ろしいものだなと思いました。
- 娘さんの副反応と経過についてのお話。なぜMMRワクチンを受けてしまう人がいたのか全然知らない状態だったので、具体例をあげていただけてとても理解しやすかったです。

○国、製薬会社、医療従事者の責任が印象に残った

- 国、製薬会社、医療職者の対応の仕方。それぞれが利益のためだけに見えるように見えた。

－医師が患者の意思を尊重しない MMRワクチン接種後の症状 家族内2次感染

○自分の将来に活かすことができる

－現実をしっかりと見つめる良い機会になった点です。薬害を根絶する為にも、医療職を志す者として、他人事にしないことが大切だと実感しました。

－自分がお母さんになる前にワクチンの怖さ・恐さ・副作用を知れて、良かったです。しっかりと調べてから使おうと思った。

－薬害について詳しく知ることができた他に、どのような点を改善すべきかに気づくことができた。私は将来、薬害を防いでいけるように声を上げたいし、味方になりたいと思った。

○授業の実施方法（グループワーク）が良かった

－グループワークで国や製薬会社が行わなければならなかった点を話し合う授業。自分だけでなく他人の意見を聞いたから。

－グループワークで国、製薬会社、医療従事者、国民それぞれが、どのようなことを行わなければいけないか話し合ったこと。

○その他

－「薬害」の恐ろしさを学びましたが、特に予防接種の被害状況が印象に残っています。なぜ早期に接種を切り上げなかったのか、副作用の恐ろしさについて、もっと説明しなかったのかとても疑問に残りました。

－MMRワクチンの被害が出てから中止になるまでの4年間だけで1041人ととても多く、見合わせになるまでの期間が長かったこと。

4. 高校生を対象にした公民科以外の教科等での実践例

(2) 被害を受けた方からの講演による授業を実施

①大阪府立 牧野高校

対象学年	高等学校第1学年
教科等	人権講演会
学習の目的	サリドマイド薬害の被害により両腕を欠損した状態で生まれてこられた増山ゆかりさんから、薬害被害者および障害者の人権に関するお話を聞く。

授業の流れ

増山ゆかり氏（(公財) いしずえ サリドマイド福祉センター）による講演
 ※講演概要は2.（1）枚方市立杉中学校を参照

授業を受けた生徒の感想

- －私たちも、自分の運命に打ち勝って、自分にとっても周りの人にとっても前向きな方向に物事が動くようにしていらっしゃる増山さんのように生きて、幸せをつかんでいきたいなと思いました。
- －薬は自分たちがよかれと思って使っているのに、怖いことだなと思った。

②学校法人志学会学院 志学会高等学校

対象学年	高等学校第1、2、3学年
教科等	特別活動
学習の目的	薬害事件の被害者の方による講演を聞き、話し合い活動を通じて、社会にはリスクが存在すること、そのリスクは自分とは無関係ではないことを理解し、実生活に生かそうとする。

授業の流れ

増山ゆかり氏（(公財) いしずえ サリドマイド福祉センター）による講演を聞き、話し合い活動を実施 ※講演概要は2.（1）枚方市立杉中学校を参照

授業を受けた生徒の感想（一部）

- －授業を受けるまでサリドマイドの問題について知らなかったが、被害を受けた方だけでなく、その母親まで責任を感じてしまっているというお話を聞いて胸が苦しくなった。また、被害者の方が二次障害に苦しめられ、これまでの仕事や経験を失ってしまったことは理不尽であると感じた。今はサリドマイドの危険性が認知されているが、同じようなことが起きてもおかしくないと思う。この薬害教育で学習したことを今後の生活にも活かしていきたい。